

# CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

## 高齢者の健康を守る口腔ケア —とくに義歯患者の口腔ケアと義歯の清掃—



日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学 教授  
日本歯科大学附属病院 教授  
同 口腔介護・リハビリテーションセンター長  
菊谷 武

日本歯科大学附属病院 准教授  
同 口腔介護・リハビリテーションセンター  
田村文誉

### 口腔機能が低下した人の口腔ケアの重要性について

口腔機能が低下すると、口腔内の自浄作用が不良となり、口腔衛生状態が悪化する。口腔機能が低下した患者という、どのような方を思い浮かべられるだろうか。要介護高齢者や口腔・咽頭領域の術後患者では、口腔内の自浄作用も低下してしまうことから、口腔衛生状態悪化のハイリスク者になりうる。

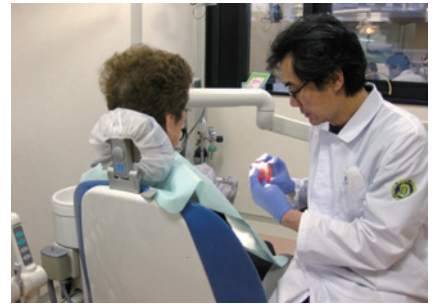
高齢者の命を脅かす肺炎は日本人の主な死因の第4位であり(1位「がん(悪性腫瘍)」、2位「心臓病」、3位「脳血管障害」)、65歳の高齢者の12%、80歳の高齢者の14%が肺炎によって亡くなっている。さらに高齢者の肺炎は再発を繰り返して治りにくく、心不全を合併しやすいとされている。口腔や咽頭内の細菌に汚染された唾液や食物を誤嚥することで起こる「誤嚥性肺炎」には、ストレプトコッカス・ミレリ群やプラーク内の偏性嫌気性菌が関与している。これらが顕性、不顕性に唾液とともに誤嚥され

ると、肺炎を生じる大きな原因となる。一方、口腔・咽頭領域の術後患者も、口腔機能に障害を受け、さらに放射線治療や手術の影響で口腔乾燥をきたす可能性が高くなっていく。また、口腔内細菌は、心疾患や糖尿病など、さまざまな病巣感染を引き起こすといわれているが、それは、口腔の常在菌が全身へ移動する“Bacterial translocation”による感染と考えられている。このような感染症を防ぐ意味からも、口腔ケアは非常に重要である(図1)。

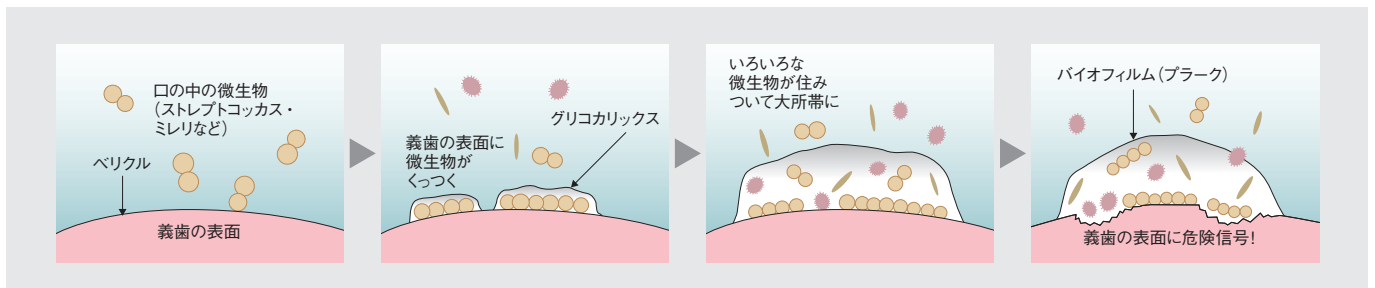
さて、要介護高齢者や口腔・咽頭領域の術後患者では、義歯や顎補綴などの補綴装置を入れている方が多くみられる(図2)。補綴装置には、カンジダをはじめとした細菌や微生物がデンチャープラークとして付着していることから、誤嚥性肺炎予防のためにもデンチャープラークコントロールの重要性が高まっている(図3)。



1 適切な姿勢で口腔ケア時の誤嚥を防ぐ。



2 義歯治療を受ける患者。義歯のホームケアの指導も欠かせない。



3 義歯の表面に付着するバイオフィルムのしくみ。



白く見えてもデンチャープラークは細菌の塊である(左)。歯肉に付着した歯石(右)。

鴨井久一、沼部幸弘:命をねらう歯周病。2002。P37より引用改変

## 義歯のホームケア

義歯の清掃には、機械的の清掃が必要である。義歯の表面には細菌がバイオフィルムを形成しており、擦り取ることでしか除去できない。患者には、必ず義歯専用ブラシを用いて清掃することを理解してもらうようにする。患者の中には、歯磨き用の歯磨剤と歯ブラシを用いて義歯を清掃している

方が少なくないが、そうすると義歯の表面が削れてしまい、さらに汚れが付着しやすくなってしまふ。また、義歯の除菌効果や、菌の再付着を抑制する効果のある義歯用洗浄剤を有効に使用するためには、義歯専用ブラシを併用し、機械的の清掃の後に義歯用洗浄剤に浸漬するように指導する。

機械的の清掃を行わずに義歯洗浄剤だけに浸漬しても、細菌はバイオフィルムを形成しているため、その中まで薬剤が届かず、洗浄効果はない。

## 義歯洗浄剤「酵素入りポリデント®」「ポリデント®フレッシュレンズ」の効果

酵素入りポリデント®は、タンパク分解酵素を添加した過酸化系系の洗浄剤で、補綴物の食物残渣を義歯専用ブラシで落とした後、浸漬して使用する。カンジダの除菌を目的として、漂白活性化剤であるテトラアセチルエチレンジアミン (TAED) を配合しており、除菌作用が高く、バイオフィルムの除去能も高いとされている。

また、新製品であるポリデント®フレッシュレンズは泡状の義歯洗浄剤で、義

歯に泡を直接スプレーし、義歯専用ブラシで磨いて使用する。発泡錠タイプのポリデント製品と真菌 (カンジダ) 以外の菌では同等の除菌力を持っており、さらに肺炎桿菌やベイヨネラ菌に対する除菌効果も認められている。研磨剤を含まないため、清掃時に義歯の表面が削れることがない。ただし、義歯にティッシュコンディショナーや軟性リラインを使用している場合、表面の劣化や変形が起こる可能性がある

ので強く擦りすぎないように注意する。

図4は、新製品ポリデント®フレッシュレンズと、酵素入りポリデント®の使用法である。ポリデント®フレッシュレンズは毎食後に、酵素入りポリデント®は漬け置き用として使用してもらうとよい。

### ポリデント®フレッシュレンズの使用法

ステップ1  
ボトルをよく振る。



ステップ2  
適量を義歯に吹きかける。



総義歯は  
2プッシュ  
部分床義歯は  
1プッシュ

ステップ3  
約90秒間、義歯用ブラシなどを用いてブラッシングを行う。



ステップ4  
流水でしっかりすすぐ。



### 酵素入りポリデント®の使用法

ステップ1  
目に見える食べかすなど汚れをブラシで清掃。



ステップ2  
目に見えない細菌などをポリデント®に5分間浸漬し除菌。



※約150mlの水または、ぬるま湯に1錠入れる。

ステップ3  
流水で洗い流す。



## 口腔乾燥への対策 ～口腔湿潤剤の利用～

最近では口腔乾燥症という言葉が耳にする機会が多くなってきているが、これはドライマウスなどともいわれ、マスコミでも注目を集めている。健康な口腔内は湿潤しているが、口腔機能の低下や服用薬の副作用などが原因で唾液分泌量が減少した人では、口腔内が乾燥状態となりがちである。また、シェーグレン症候群や放射線治療、発熱時や脱水状態時にも唾液分泌低下が生じる。さらには、口呼吸の習慣があったり、意識障害のために開口状態が続くと、口腔内が乾燥する(図5)。口腔内が乾

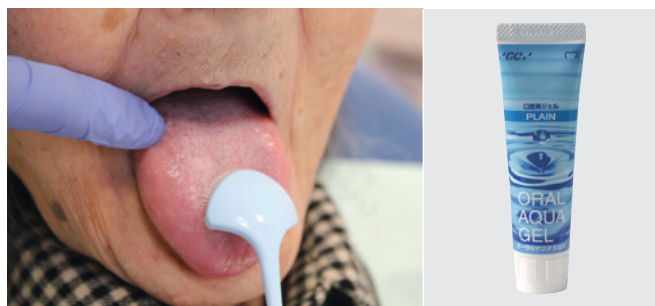
燥すると、義歯などによって口腔粘膜が傷つきやすくなり、疼痛の原因となる。舌の清掃の際にも乾燥が強い場合は、湿潤させてから行うとよい(図6)。

口腔乾燥の対策として、口腔湿潤剤、人工唾液、ワセリンなどを用いる方法が取られている。この中の口腔湿潤剤のうち、オーラルアクアジェル®のようにジェルタイプのものは、口腔内でののびが良く、停滞時間も長いことから使いやすいものとして推奨される。患者が自ら使う場合は、適量を指などにとって、含み、舌で口腔内にまん

べんなく塗布してもらうようにする。要介護高齢などの口腔ケアに使用する際には、スポンジブラシなどを用いて本製品を舌上や口腔前庭部粘膜にまんべんなく塗布する。痰や口腔粘膜の脱離上皮が乾燥してこびりついているような症例では、無理にはがそうとはせずに、本製品がしっかり浸みこみやわらかくなったところで、そっとはがすようにする。本製品は、塗布後に起こることの多い、皮膜の形成や粘性の高まりは少なく、使いやすい製品である。



5 口腔乾燥の悪化した例。



6 舌ブラシ(ジーシー社)を使用してオーラルアクアジェルにより柔らかくなった舌垢を清掃する。口腔内の細菌を減らすためにも効果的である。

## 義歯安定剤の使用について

口腔乾燥があると、いかに適合の良い義歯でも粘膜と擦れて疼痛の原因となり、患者からは「入れ歯が合わない」と言われることがある。保湿剤を使用しても改善されない場合、義歯安定剤(新ポリグリップ®無添加)の使用を検討するのもよい。また、在宅患者では思うように診療を受けられない場合もあり、緊急避難的に義歯安定剤

を使用してもらうのも1つの方法である。

使用方法は、クリーム状の義歯安定剤の場合、よく洗浄した義歯の内面にチューブから0.5～3.0cm程度を直接出し、塗布する。その後、患者の口腔内に装着してもらい、1分間ほど軽く押さえ、隙間を密封するようにする。また、外すときは奥の方から外すようにする。パウダー状の義歯安定剤

は、総義歯専用である。義歯をよく洗浄した後、義歯の内面に適量を振りかけ、余分な粉末は軽く振り落とす。その後はクリーム状のものと同様に、患者の口腔内装着してもらい、安定するまでしっかりと押さえる。いずれも、菌の繁殖など、不衛生になることを避けるために、毎日交換することが必要である。



7 義歯安定剤 新ポリグリップ®無添加(ジーシー社)

## 要介護高齢者の口腔ケアの実際

Mさん(女性、85歳)はもともと糖尿病を患っていたが、半年前に脳梗塞を発症し、現在は自宅に戻って娘夫婦と一緒に暮らしている。経口摂取をしているが、軽度の嚥下障害のため、食べ物はペースト状やゼリー状である。また、いつも口呼吸をしていて、さらに糖尿病や高血圧の薬の副作用のために口腔内は乾燥しているため、口腔内の衛生状態はかなり悪化していた。また義歯を使っているが、かなり汚れた状態だった。家族が口腔ケアを行おうとしてもなかなか思うようには口を開けてくれず、指を咬まれてしまうこともしばしばであった。そこで、訪問診療での口腔ケアの依頼があった。

専門的口腔ケアとして、週に1回のペース

で歯科衛生士が直接口腔内のケアを行っていたが、それだけでは口腔の健康を維持するには不十分である。それと同時に、家族に対する日常の口腔ケア方法の指導が重要である。義歯は食後に外し、機械的清掃を行った後に義歯洗浄剤ポリデント®へ浸漬するように、また口腔内はスポンジブラシと保湿剤で舌や口蓋などの粘膜清掃を行い、口腔乾燥を防ぐよう指導した。

それまで口腔内が不潔な状態で、食事はペースト食をやっと半分くらいしか食べられないような状態のMさんだったが、訪問による口腔ケアを開始してから、見違えるように食欲が出てきた(図8)。おそらく、それまでは口腔内の不快感が強く、食べ物の味もわかりにくいので、食事への楽し

みが少なかったのであろう。その後、家族の口腔ケアへの積極性も高まり、週に1回の訪問を、Mさんともども楽しみにしてくれるようになった。

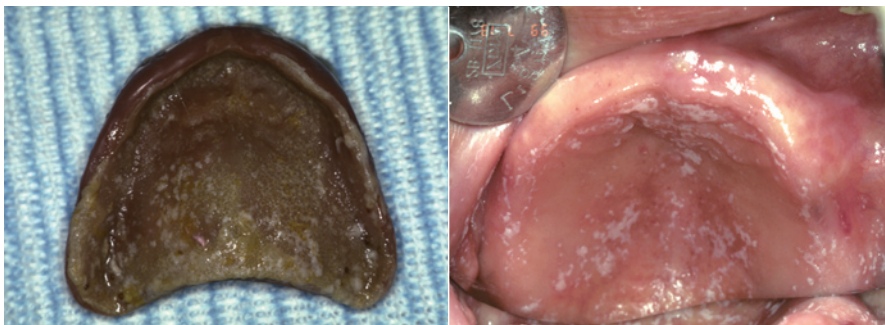
Mさんのように、口腔ケアを受け入れてもらえるようになると、食事にも良い変化がみられる。しかし、要介護高齢者の中には、どうしても口腔ケアを拒否してしまったり、また介護者の協力が得られない場合もみられる。そのため、義歯を使用している人では、写真のような状態になってしまうことも少なくない(図9、10)。このような悲惨な状態を避けるためにも、義歯洗浄剤などのケア用品の活用を広めていくことが大切だろう。



8 歯科衛生士による口腔ケア。食欲が出てきた様子。



9 口腔機能が低下した方では義歯の衛生状態が不良になりやすい!



10 デンチャープラークはカンジダ菌の温床!?! カンジダ症の口腔粘膜!

### ●参考文献

- 西恭宏, 長岡英一: 義歯の洗浄剤. 月刊総合ケア, 13: 62-63, 2003
- 二川浩樹: 義歯洗浄剤を再考する. PRACTICE IN PROTHODONTICS, 42: 585-592, 2009